

香取遺産

vol. 157

八坂神社の旧神輿^{みこし}

佐原本宿地区の八坂神社では例年7月中旬に祇園祭が執り行われます。現在その祭礼で担がれる神輿は昭和38年製作のものですが、実はこれ以前の旧神輿も残されています。四角形の神殿をかたどった大型の神輿です。

神輿の構造は、下から台輪^{だいわ}(台)、胴(本体)、屋蓋^{おくがい}(屋根)からなります。台輪は四面に三つ巴紋をあしらった約128cm幅の黒漆塗り^{うらし}で、2本の轆^{なご}(担ぎ棒)が差し込まれています。台輪の上に乗る胴は四方に鳥居が建ち、周囲は井垣^{いがき}で囲まれていて、全体に朱塗りで仕上げられています。屋蓋は一辺約170cm四方^{ほうぎょうづく}の方形造り、黒漆塗りで、頂部に大鳥^{ほうおう}(鳳凰)、四隅の蕨手には小鳥^{つばめ}(燕)が飾られています。台輪下から鳳凰を含めた高さは230cmほどで、轆を含めた重量は720kgにもなります。

屋蓋四面には三つ重ねた輪宝紋^{りんぼうもん}が付いています。輪宝とは、元は車輪の形をした古代インドの武器で、仏教に取り入れられ^{てんりんじょうおう}転輪聖王の所有する宝の一つとされます。仏教にゆかりのある紋ですが、明治以前は^{しんぶつしゅうごう}神仏習合であったこと

に関係があるのでしょうか。

ほかにも、胴四隅の龍の彫り物、屋蓋に下がる^{ようらく}瓔珞や随所に施された飾り金具類など、全体に手の込んだ造りとなっています。

製作年代は不明ですが、神社に残る嘉永4(1851)年の古文書には、新規に神輿を仕立てる旨のことが記されているので、あるいはこの時の神輿かもしれません。

昭和40年に市指定文化財となり、現在は水郷佐原山車会館に展示されています。

図 生涯学習課 ☎(50)1224



▲展示されている旧神輿(左)・昭和初期の神輿渡御の様子(右)